

視察報告書

発行No. S-26019

作成日 2026.1.22

作成者 佐原充恭

視察地 静岡県焼津市 ターンクル子ども館

日時

2026.1.19(月) 13:30~15:00

視察テーマ 「※ターンクル子ども館」について

※焼津市方言「(来場者が)たくさんくる」

視察目的 室内で学び遊べる屋内施設の先進事例を現地現物で学ぶ。

視察メンバー
(敬称略)

会派「市民クラブ」メンバー:佐原充恭 佐々木隆教 伊藤愛恵 鈴木定晴 深谷英貴 中嶋祥元

出典:当日頂いた資料及びターンクル子ども館HP

1. 取り組みの背景

H28市長戦略会議の案件の1つとして、小学生以上を含む幅広い年齢層の子どもが屋内で集い遊べる機能を整備することとなった→基本理念「未来を担うすべての子どもたちが、健やかに成長していくために、集い・遊び・学びの複合的な機能を配置し、子どもを中心とした多世代交流ができる子育て支援の拠点を目指す。」→★令和3年7月4日開館



2. 施設の概要

施設の仕様等	旧福祉庁舎跡地1,614.9㎡を活用。総事業費約17億円。鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 地上3階建。
アクセス	JR東海道線「焼津駅」南口より徒歩8分、東名焼津ICから車で約10分。
施設の構成	子ども図書館「やいづ えほんと」及び「焼津おもちゃ美術館」で構成。
施設の特徴	大井川産材を中心とした木材を活用し、木を使って遊び学ぶ機会を創出。
開館時間	図書館:AM9時~PM7時、美術館:AM10時~PM4時 水曜及び年末年始休館。
入館料	図書館:無料、美術館:有料(1歳未満児無料、市内100円~500円、市外500円~1,000円。パスポート、障がい者割引等あり。駐車場使用料150円+1時間ごと50円(入館者は最初の2時間無料)。
来館者数	令和7年12月末 累計39.2万人(うちおもちゃ美術館35.6万人)。
来館者比率	市内:27.9% 市外:72.1% 圧倒的に市外からの来館者が多い。

3. 機能の概要

3階			
2階			
中2階			
1階			

所感: 当館には、図書を寝転んだり穴倉にこもって閲覧する、木製玩具と質の高いふれあいができるなど、子どもと保護者の好奇心を刺激する工夫が随所に盛り込まれていた。開館まもない施設はモダンで清潔、交通アクセスも良好である。昨今の猛暑や天候不順等より、天候に左右されず、衣服も汚れず、屋内で学び遊べる施設のニーズは高まっている。今回学んだ新たな視点も加味し、引き続き設置を要望していきたい。

視察報告書

発行No. S-260120

作成日 2026.1.27

作成者 佐原充恭

視察地 埼玉県市富士見市 中央図書館

日時

2026.1.20(火) 13:30～15:00

視察テーマ Hareza池袋見学 ～ **STEM教育について**

視察目的 科学(Science)、技術(Technology)、工学(Engineering)、数学(Mathematics)を統合的に学ぶ取り組みを学ぶ。

視察メンバー(敬称略) 会派「市民クラブ」メンバー:佐原充恭 佐々木隆教 伊藤愛恵 鈴木定晴 深谷英貴 中嶋祥元

AM:Hareza池袋見学

特別な場所を表す「ハレ」の場、多くの人が集まる「座」を組み合わせたネーミングの複合施設で、劇場や区民センターが入居している。ZEB認証によりCNにも貢献している。平日にも関わらず多様な文化活動が行われており、豊島区が掲げる「国際アート・カルチャー都市構想」の発信拠点として機能している事に感銘を受けた。

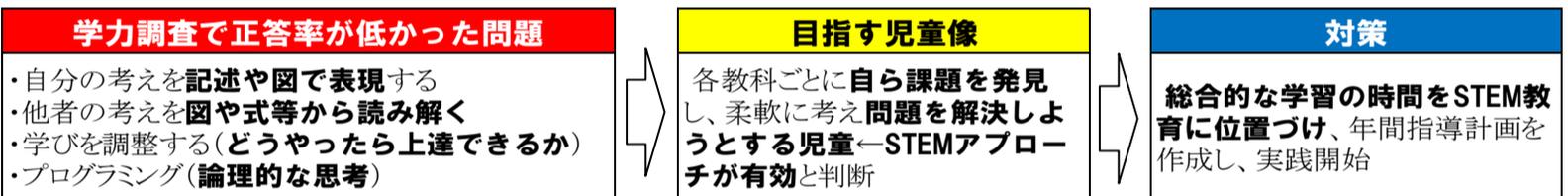


出典:当日頂いた資料及び富士見市HP

1. STEM教育とは

Science	理科	科学的な見方、考え方	これらの4分野を統合的に学び、知識を応用して課題解決能力や論理的思考力を育む教育をいう。	
Technology	技術	知識・技能のまとまり		
Engineering	工学	多様な価値、問題解決に関する見方考え方		
Mathematics	算数	数理的な見方考え方		

2. 現状把握と対策



3. STEM教育の実践と今後の課題

STEM教育導入		★モデル校設定 令和2・3年度:ふじみ野小 令和4年度 :ふじみ野小、水谷東小、つるせ台小 令和5年度～ 小学校全11校で実施	順次拡大
レゴブロックWeDoの活用		★「レゴブロックWeDo」とは レゴブロック、ギア、モーター、タイヤ、センサーなどがセットになった学習教材。これらを自分で組み立て、プログラムするモノの構造を楽しく学ぶ。タブレットとBluetooth接続し操作も簡単。STEMの時間が待ち遠しいほど子ども達が夢中に。	STEM教育実践
		★WeDoによるSTEM教育実践事例 <ul style="list-style-type: none">まちの安全を守るロボット作成問題解決のプロセスを意識した指導の実践 →問題発見、分析→目標設定→案の生成、選択→実行、評価たくさんの案、もっと良い方法を考えるトレーニング	
小学生ロボコン富士見大会開催		★小学生ロボコンとは 高専ロボコン、NHK学生ロボコン、ABUロボコンに次ぐ第4のロボコン。小学生なら誰でも参加可。身近な材料や道具で工夫してロボットを制作し、課題に挑戦する。全国共通ルールに則り各地で競技を行い、1位の児童が全国大会に出場。	

成果と今後の課題

★成果:「さらによくしたい」との思いを醸成、集中力の伸びを実感、思考力を発揮した創造ができるようになった、難しい振り返りができるようになった、ロボット制作への関心増、子ども同士の交流が図られた etc.
◆課題:生徒間に技能の差が発生、類似作品が多数、中学への接続など系統的カリキュラムの作成 etc.

所感:本市の屋台骨である自動車産業の次代を担う、技能系人材の育成に有効な施策だと感じた。技能系人材は大幅に不足しており、獲得競争も激化している為、私達市民クラブは「幼少期よりモノづくりに親しめる施設の設置(公設、公設民営、民間施設誘致等)」を要望している。学校教育だけでなく、地域全体で技能系人材が育つ風土や機能づくりを、引き続き提言していく。

視察報告書

発行No.	S-260121
作成日	2026.1.27
作成者	佐原充恭

視察地	埼玉県入間市 入間市役所	日時	2026.1.21(水) 10:00～11:30
視察テーマ	EV活用再生可能エネルギーマネジメント事業について		
視察目的	EV公用車を市民とのシェアリング等に活用し、ゼロカーボンシティを目指す先進事例を学ぶ。		
視察メンバー (敬称略)	会派「市民クラブ」メンバー:佐原充恭 佐々木隆教 伊藤愛恵 鈴木定晴 深谷英貴 中嶋祥元		

出典: 当日頂いた資料及び入間市HP

1. 事業の経緯、目的

R3.4時点で公用車の約半数が導入から20年以上経過→EV導入及び市民等とのシェアを通じ、その普及促進と環境意識の啓発につなげたい→小田原市の先行事例を視察→R4年度事業開始



2. 事業の概要

実施事業者	入間市EVゼロカーボン推進チーム（代表:入間ガス株）			
分類	市庁舎	健康福祉センター	藤沢地区センター	備考
 車種	日産リーフ:2台 日産サクラ:8台	 充電 日産サクラ:2台	 充電 日産サクラ:1台	 充電
 太陽光発電設備	立駐屋上:73.72kW 正面玄関:5.85kW	 発電 建物屋上:68.475kW	 発電 既設分	 発電 環境省補助メニュー「スキーム」に従い、太陽光電力をEVに使用。余剰分は庁舎で使用。
EVリース料	約1,673万円/年 (設備費込)	約274万円/年	約149万円/年	車両価格 維持管理費等
EV、発電設備等 工事費	—	約481万円/年	約526万円/年	V2H、充電器他 経費削減の為市費、補助 金、事業債でまかされた
太陽光発電料金	16.43円/kWh 128万円/年	20.00円/kWh 163万円/年	—	従来比 ▲2～4万円/月
太陽光発電 CO2削減量	全施設計 R6年度施設使用分:年間64t-CO2			—
EV公用時間帯	平日:8:00～18:00	平日:終日		一般利用不可
EVシェアリング 時間帯	平日:19:00～翌日7:00 土日祝日:終日	土日祝日:終日		料金:15分220円～
シェアリング 使用アプリ		 予約、開錠、利用、決済まで手軽に行える アプリ「イーモ」活用		自動車管理室まで都 度行く必要なく便利
EV利用状況 R5.2～R7.11	公用 10,477件 308.1件/月	公用 1,295件 61.6件/月	公用 126件 10.5件/月	—
	シェアリング 397件 11.6件/月	シェアリング 45件 2.1件/月	シェアリング 54件 4.5件/月	福祉&地区センター 利用伸び悩み
	職員プライベート 64件 1.8件/月	—	—	職員も有料 利用伸び悩み
EV利用について 肯定的な意見	走行音が静か、車内が清潔、長時間乗車によりEVの特性が把握できた、予約が便利 etc.			
EV利用の課題	土日は有料で公用利用しづらい、公用時間超過すると自己負担、個人スマホの使用に抵抗 etc.			
災害時のEV利用	事業者と「災害時におけるEVの利用等に係る覚書」を締結。電源として各避難所に派遣する。			
その他平時の EV利用	外部充電器として各種イベントに活用している(R5:10件、R6:13件、R7.1.5時点:8件)			

所感: 自治体がEVを公用車として導入し、住民とシェアリングする取り組みは全国で広がる一方で、「利用が伸びない」「維持管理の負担が大きい」「補助金終了後の持続性」等の課題に直面し、次の一手が見いだせないケースも増えている。各市の特性に見合った運用の見直しが必要だと感じた。FCV、PHVも含めた「全方位」の公用車を、いかに合理的に運用するか、本市もしっかりと研究して電動化を進めて頂きたい。